

町の英語指導助手（AET）として子ども達に生きた英語を伝えてくれているキンバリー・八千代・マルヤマさん（愛称：キムさん）。東川に来町し1年2カ月が経ち、最初はほとんどしゃべることが出来なかった日本語が今や誰もが感心するほどできるようになりました。

キムさんの日本語の勉強方法から私達が英語を学ぶヒントを探すこのインタビュー、前編は音に出して読むことと毎日の繰り返しが大切であるというお話でした。後編は書くこと、そして文法について話しがすすみます。



英語学習指導員 宮地晶子の

エイゴのマナビカタ

外国人の日本語習得法から学ぶ

東川町英語指導助手

東川町英語学習指導員

キンバリー・マルヤマ×宮地 晶子

第8回

特別インタビュー（後編）

宮地 書くことも大切ですね。そしてきちんとした文法力も必要です。

いま日本では空前の英会話ブームですが、かえって日本人の英語力は落ちてきていると考える人も多いのです。読み書き文法の力と英会話を切り離して考える人が多いようです。

キム 実際に外国へ行くのであれば文法力が必要です。私は日本に来る前にもっと文法をやっておけばよかったと思います。言いたいことがあっても単語だけではそれを伝えられないのです。

宮地 そうですね。だから私は中学校の英語教育が何より大切だと思っております。中学校で習う文法が全ての基盤となる文の構造です。これに少しづつ語いを足していけば自分の言いたいことが言えるようになります。

外国の人間が外国語を学びやすいようわかりやすく説明したものが文法で、これは車で言えば交通ルールのようなものです。文法は私たちを助けてくれる道具だから目の仇にしないで味方につけるものなのです。

キム 本当に文法は大切ですね。私の使っている日本語のテキストも基礎的な文法の本です。重要な構文が載っていてこれを見れば文の仕組みが分かるように

なっています。まずはこれをきちんと身につけておきたいですね。

宮地 語い（単語）はじつじつと増やしていますか。

キム こちらに来た頃は話をしていて知らない単語に出会うとすぐに調べていました。今はテキストの単語をまず覚えるようにしています。その方がより実用的で密度の濃い勉強になります。

宮地 そうですね。会話で出てくる表現はさまざまで人によって使う表現にもばらつきがあります。

キム 会話で出会う表現は確かに面白いのですが、テキストに出てくる単語の方が後で使う時安心です。また覚えた直後に活字で目にする確率も高いです。テキストで学んでから実際に会話で使うほうがより強く記憶に残ります。習ったばかりの単語を続けて3回も耳にする日もありません。

宮地 日本で英語を学ぶ私達の場合、そういう機会はあまりないように思えますが。

キム でも自然に耳にする機会はなくとも日本には英語があふれています。日本にいながらにして英語のテレビや映画を見て、英語の本を読む。私の周りにはそうやって英語の環境を整えてい

る人がたくさんいます。自分でそういう環境を作ることではありません。

私の場合もカナダに戻ってから、どうやって日本語に触れる機会を保ち続けるかが課題です。

宮地 英語を学びたいと思う人達にメッセージはありますか。

キム とにかくやり甲斐があります。大変ですが私の場合も成果が出つづあります。「できるよ」になる「と信じてみる」ことです。確かに「と信じてみる」ことです。時々「今日日になにも身につかなかった。」と思う「と」家路に着くこともありました。

挫けそうになって、もう日本語はやめてスペイン語をやる、と思つたこともあります。

果てしなく遠いと思える日もあるのです。でも実際はやつたらやつただけのことがあります。

宮地 まったくその通りですね。最後にキムさんからの励ましの言葉が、「The world is your oyster.」この言葉はキムさん自身が周りの人からよくかけられた言葉だそうです。世界はあなたが思う通りになります。でもどんな風にしたいかを決めるのはあなた自身でもあります。つまりはオイスター（牡蠣）のように真珠を抱けるかどうかはあなた次第ということなのでしょう。